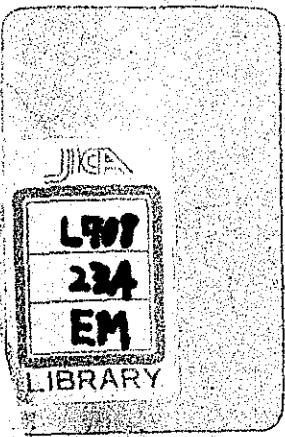


アマンバイ入植地概況

1969年 8月

海外移住事業団アスンシオン支部
アマンバイ出張所



国際協力事業団

受入 月日 '84. 8. 18'	L708
	23.4
登録No. 09510	EM

< 目 次 >

アマンバイ入植地 概況地図 ----- 1

1. **自然的環境**

- (1) 所在地 ----- 2
- (2) 土質、地形 ----- 2
- (3) 気候 ----- 2

2. **社会経済的環境**

- (1) 交通、通信 ----- 2
- (2) 通貨交換レート ----- 4
- (3) 物価と景気 ----- 4
- (4) ベ、ホ両市の通行 ----- 5
- (5) 生産物市場、輸送費 ----- 5
- (6) 地区内人口 ----- 6
- (7) 公共施設その他 ----- 6
- (8) 対日感情 ----- 6

3. **邦人入植の経緯と定着状況** ----- 7

4. **入植者の経済状況** ----- 9

5. **営農概況** ----- 9

6. **アマンバイ地区の日本人組織**

- (1) アマンバイ農協 ----- 11
- (2) エストリエーリャ 農産協同組合 ----- 12
- (3) 日本人会及び部落会 ----- 12
- (4) 日語教育 ----- 13
- (5) 華業団アマンバイ出張所 ----- 13

別表(1) 年度別気温表 ----- 14

〃 (2) 〃 雨量表 ----- 15

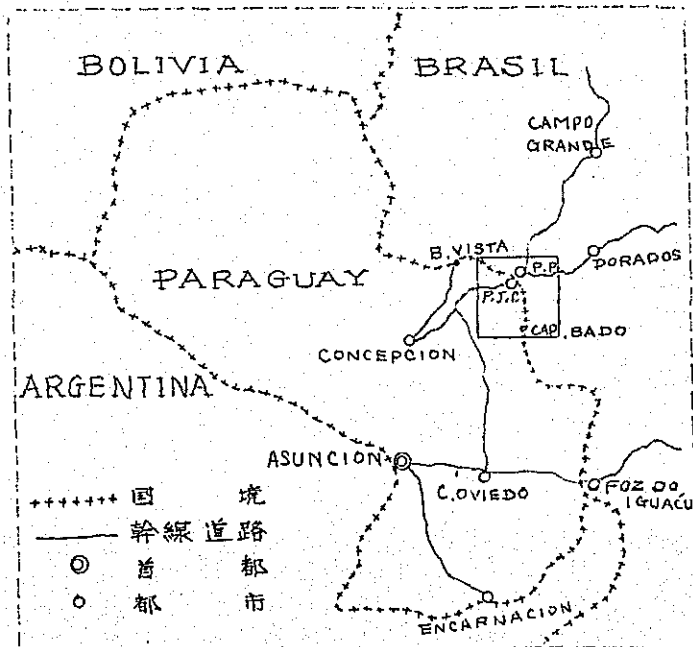
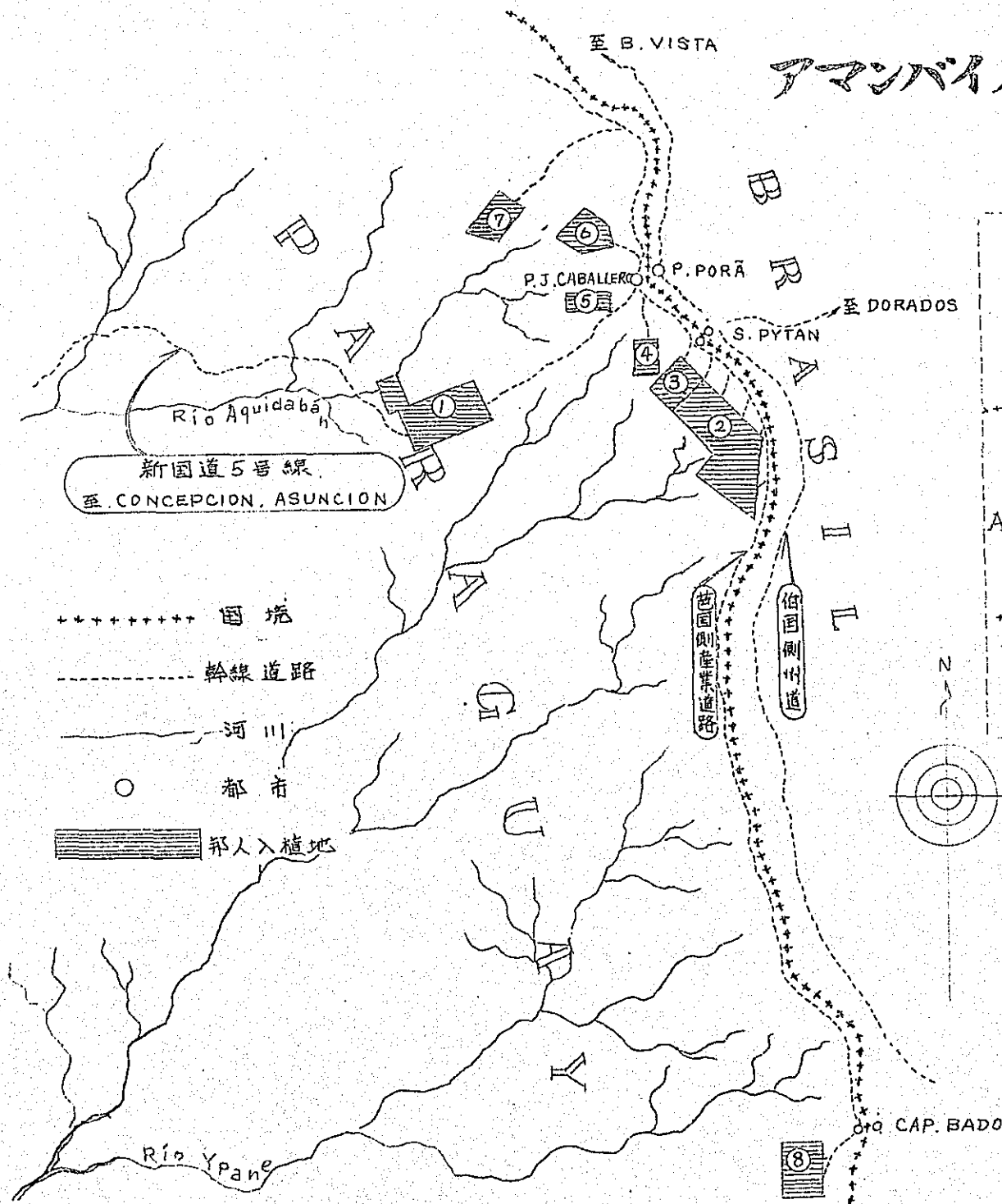
〃 (3) 1968年度気象表 ----- 16

JICA LIBRARY



1028973[4]

アマンバイ入植地概況地図



NO 地区名 P.T.C市よりの距離 戸数

①	シリグエロ	25 km	32 戸
②	ギ-サンハアタン	30 "	33 "
③	ギニサンハアタン	25 "	6 "
④	マ フ シ	7 "	7 "
⑤	カピバル	10 km ~ 20 "	7 "
⑥	セロユラ	4 ~ 7 "	7 "
⑦	エストレーリヤ	35 ~ 40 "	12 "
⑧	カピタンバード	110 "	5 "
			市内 61 "

1. 自然的環境

(1) 所在地

パラケアイ国北部、アマンバイ県、ペドロファンカバリエーロ市（アスンシオン北東370km、南緯22°32′、西経55°44′）周辺に所在し、標高は概ね650m。

邦人入植地は、同府を中心に8地区（カピタンバード、ヤーサンハファイタン、アニサンハファイタン、マフシ、エストレーリヤ、セロコラ、シリケエロ、カピバル）に分散入植している。

(2) 土質、地形

伯国との国境地帯で、東部国境沿いが嶺線部を形成し、平坦ではあるが、この部分より多くの小河川（リオアキダバン、リオイパネ）が源を発して西部に流れているので、地形は地区により可成り起伏しており、一般に波状ないしは丘陵地形である。

土質は、テラロッシマの肥沃地と、低地は黒土の壤土、砂土の湿地帯となっている。既成入植地であった為、処女原生林は少ない。概ね東部及び北部の国境沿いは砂岩に由来し、カンボが多く、他は中生代武岩に由来した埴土或は埴壤土である。

(3) 気候

大陸性亜熱帯に属し、昼夜の気温差は激しい。概して標高が高い為と思はれるが、日中は微風の絶える事がなく、比較的清涼にして過し易い。たゞ屢々北東から吹きつける乾風が、道路の砂塵を巻き上げ吹き散らすのが、当地区の名物的現象となっている。尚、一年を雨季（10月～3月）乾期（4月～9月）に大別できるが、雨量及び気温については別表の通りである。

2. 社会経済的環境

(1) 交通、通信

ア. 地区内

各地区よりペドロファンカバリエーロ市（以下単にペ市と称す）に通ずる道路は、従来も比較的良好であったが、更に近年、南北に走る国境線に並行して、ペ市とカピタンバード市を結ぶ産業道路と、シリケエロを抜けてアスンシオンに通ずる国道が開通したので、これらの道路を

利用しての地区内交通は、ゼロコラ、カピタンバードの極一部を除いて頗る便利になった。但し、降雨時には、パラケアイ側の道路は閉鎖され、一切の交通はストップされるが、国全域に行はれている道路保護策とあれば止むを得ない。

地区内通信連絡は、各地区毎に区長又は実行組合長を置き、回覧状又は伝言によって行はれており、電信電話等の地区内通信施設はない。

註)	ペ市	～	カピタンバード地区	110 km	180 ~ 210分	ジープ
〃	〃	～	シリカエロ	25 〃	25 ~ 30 〃	〃
〃	〃	～	オーサンハフイタン	30 〃	40 ~ 60 〃	〃
〃	〃	～	オニ	25 〃	40 ~ 50 〃	〃
〃	〃	～	ゼロコラ	4 ~ 7 〃	30 ~ 60 〃	〃
〃	〃	～	カピバル	10 ~ 20 〃	15 ~ 25 〃	〃
〃	〃	～	エストレーリマ	35 ~ 40 〃	90 ~ 120 〃	〃
〃	〃	～	マフシ	7 〃	~ 25 〃	〃

イ. 地区外

首都アスンシオンへは、1967年迄は空路 (T.A.M) と、コンセプション至由の陸路-水路 (河船) に頼っていたので、交通は極めて制約されていたが、新国道5号線開通によって、直接陸路輸送が可能となり、生産物のアスンシオン市場への進出、或は又、コロネルオビエドからフォスドイグアスを抜けてパラナグア自由港への搬出へと、当地区の経済圏は飛躍的に進展した。

一方、佻国側ポタポラン市 (以下単にポ市と称す) からは、カンボケランデ、サンパウロ方面に向けて、毎日一回のバス、鉄道、旅客機 (VASPI) の各便がある。

尚、現在ペ市よりアスンシオンを始め、国内他地方と結ぶ電話はなく、一般的にはその連絡を電報並びに郵便手段に頼っている。

註)	ペ市	～	アスンシオン	陸路	620 km	バス	15 ~ 16 時間	毎日 2 便
〃	〃	～	コンセプション	〃	230 〃	〃	5 〃	〃 3 ~ 4 便
〃	〃	～	アスンシオン	空路	1.2 時間	(T.A.M) 週 5 便	(Aero Norte) 週 3 便	
〃	〃	～	コンセプション	〃		(Aero Norte) 適宜発航		

(2) 通貨・交換レート 当地の通貨は、芭国のペ府に於てさえも、公共機関を除いては殆んど伯国クルゼイロが使用されている。いかに伯国の至済力が大きく影響しているかが察しられる。当地に於ける1958年以降1968年迄、約10ヶ年間のCn貨対Cn貨の交換レートの要動は下記の通りである。

伯貨対芭貨の年次別交換レート

年次	伯貨(クルゼイロ)	芭貨(カラニー)
1958年	0.50 ~ 0.75	1
59 "	1.0 ~ 1	"
60 "	1.6 ~ 1.2	"
61 "	1.85 ~ 1.5	"
62 "	3.03 ~ 2	"
63 "	7.4 ~ 5	"
64 "	11 ~ 9	"
65 "	14.7 ~ 11.1	"
66 "	17 ~ 14.9	"
67 "	23 ~ 17	"
68 "	33 ~ 27	"

(3) 物価と景気

伯国でのインフレによる物価の上昇は激しい。上表に見られる通り、恰度10年前1959年には、カラニーとクルゼイロは対であったのが、今日クルゼイロはカラニーの $\frac{1}{30}$ に価値減少を来している。そして物価も一般的に40~50倍に上昇している。従って、カラニーを基準として見る時、実際の物価上昇率は1.3倍~1.7倍である。

ペ府とボ府に於ける物価の差は、従来稍ボ安ペ高の傾向にあり、商品も比較にならない程ボ府が豊富であった。

但し、この二、三年表は、特にアスンシオン迄の国道が完通してからは、アスンシオンより安い外国商品が豊富に出廻ったことと、伯国が近年とみに商店に対する税金攻勢が高まったこと等に起因して、機械類、家具類を除いてペ安ボ高の傾向にあり、現在景気は逆転しつつある。

(4) ペ、ボ両市の通行

ペ市とボ市は、一本の広い境界線道路によって隔てられているが、人の通行は、それが徒歩であれ車輛であれ、全く自由である。又、商品の買物も、それが自家用程度であれば、現在のところ持ち込みは自由である。(但し、最近、酒、煙草類の荷国への持ち込み量の多少を問わず禁止される由である)然し、就して、芭国ペ市から荷国ボ市への商品及び生産物の無断大量持ち込みは、荷国側の取締りが厳重で、持ち出しは難しい感がある。ペ市へのボ市からの持ち込み持ち出しに対しては、芭国当局としては極めて放任的な態度をとっている。但し、両国とも、両市から一歩外へ出る場合は、一段と取締りは厳重である。

(5) 生産物市場、輸送費

A. 市場は生産物品目によって異なる

コーヒー	国内又は輸出。当地区で生産されたコーヒーの大部分は、従来、米人会社の手により、ニューヨーク市場に出されていたが、本年度(1968年)よりアマンバイ農協が直接ニューヨークの商社と契約を結び輸出する様になった。又、輸出規格品外のコーヒーは主に国内消費用として現地商社に販売。
マテ茶	国内販売
大豆	現在のところ主としてコンセプション榨油工場
小麦	国内(輸出禁止品目)主としてコンセプション
蔬菜	ボ市を含む域内(一部品目アスンシオン)
柑橋	同上
鶏卵	同上及びアスンシオン
鶏肉	ボ市を含む域内

B. 出荷輸送費

ア. 地区内 各地区入植地よりペ市迄のトラック運賃は、一台6^{ton}積で1000 ϕ ~2000 ϕ 程度、カビタンボードに限り4500 ϕ 程度である。

イ. 地区外

トラック	ペ市	~	コンセアション	Kg当	1 ϕ 程度
"	"	~	アスンシオン	"	2.5 ϕ "
飛行機	ペ市	~	アスンシオン	5Kg迄	65 ϕ (最低料金)
				5Kg以上 25Kg迄	Kg当 13 ϕ
				25Kg以上	Kg当 10 ϕ

(6) 地区内人口

ペ市	4,000戸	29,000人	近郊(含コロニア)	21,000人
ポ市	2,800戸	12,600人	"(")	25,900人
	6,800戸	41,600人		46,900人

総人口 88,500人(邦人 170戸, 950人)

(7) 公共施設、その他

A. ペ市 庁舎、市役所、電報局、郵便局、裁判所、学校8(小2、中3、高3)土地局支所、公証人事務所、学災保険局支所、警察署、警備隊、銀行2、病院3、飛行場、映画館2、商店243、飲食店281、工場28(製靴、パン屋等家内工業を含む)

B. ポ市 市役所、裁判所、郵便局、学校8(小3、中1、高4)警察署、警備隊、病院2、銀行6、飛行場、汽車停留場、映画館1、商店498、工場7(精米工場3、冷凍工場1、その他)

(8) 対日感情 入植地に於ける邦人に対する現地人感情は極めて良い。過去に於ても、対邦人傷害事件等も皆無である。邑人白人間も良く、国境があつて国境なく、道一隔てた両市間に於ても、前記した若干の規制はあるが、物的人的往来は殆んど自由で、平和なムードが漂っている。

3. 邦人入植の経緯と定着状況

アマンバイ地区に於ける邦人入植の丁史は、ペ南西南15km~30kmに耕地を有する旧C.A.F.E会社(通称ジョンソン耕地)に4年間のカフェー栽培契約雇傭農として入植したのをきっかけとする。即ち1956年5月、38家族を第一陣に、1958年5月迄の間に145家族が入植したが、同会社は人的災害により経営不振に陥り、1957年には既に労賃不払い食糧欠配等の雇傭契約不履行が相次ぎ、耕地内は混乱を極めた。1958年5月、最終組19家族が入植する頃は脱料者が続出し、1959年に至り同会社は遂に破産宣告を受けた。

1960年、契約満期となったが、会社倒産の事由によって既往労賃も受け取れぬ終、残留邦人入植者は資金設備もなく同耕地を離れたケースが多く、華業団(旧移住振興会社)の資金融資援助により土地をそれぞれ選定購入、漸く自営農として独立する事ができた。

土地の選定に当っては、当時グループで南近郊の政府の土地もしくは現地人個人の土地を物色し、これを籤引により配分した。この時割当てられたロットの良し悪しが、その後の運命を極端に分つ結果となった。

独立後はコロノ時の経験を生かし、殆んどの入植者が惹かれてカフェー栽培を行ったが、その成績は高市場価格と、しかも一時は順調な成長を示したが為に、それが一種のカフェーファームを呼び起し、南部パラグアイの日本人入植者を魅惑するところとなり、66年をピークに61年から67年迄25家族も南部パラグアイから当地区に受け入れることになった。

この終何事もなく過ぎれば、移住史上恐らく稀に見る短期大成功の移住地として世の注目を浴びる事になったであろうが、不幸にして1965年、1966年と未曾有の連続大降霜に見舞われ、多くの入植者は所積をこめて作りだした資産を一瞬にして消失した。これにより飛ぶ鳥を落とす勢いにあった当地区入植者は一時に茶落の底に突落された如く呆然自失し、或る者は伯國に去り、或る者は鋏を捨て町に出た。

降霜という災害は1969年7月10日再び当入植地を襲い、1965、6年を上回る被害を残した。しかし入植者は、とう過去ほどの動搖を示さず、定着の方向で現任冷静且つ真剣に対策を考えている。

なお7月中旬以降約50日余にわたり全く降雨がないという異常天候のため、小麦等多くの被害が出ている

(1) アマンバイ移住地入植者定着状況表

入植退耕年度		1968年末現在													
入植退耕区分		1955	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	計
入植	内地入植者戸数	52	53	30	0	0	0	0	1	0	6	6	1	1	152
	現地 "	0	12	7	9	6	6	6	6	6	7	13	6	5	89
	計	52	65	37	9	6	6	6	7	6	13	19	7	6	241
退耕	内地入植者戸数	0	5	37	10	3	0	0	0	0	2	1	6	3	67
	現地 "	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4
	計	0	5	38	10	3	0	0	0	0	2	3	7	3	71
年度末現在戸数		54	114	113	112	115	121	127	134	140	151	167	167	170	
" 員数		389										925	937		

註) 1. 当入植地の丁度バジーン・新地の混雑期に際を以て、1957年より1965年度の10年間の受数は混雑としてこれを掲げ得ない。

2. 現地入植戸数計89戸中、二、三等或は同伴者の分家独立によるものが58戸である。

(2) 出身県別戸数

高知	北海道	和歌山	徳島	福岡	広島	香川	鹿児島	静岡県	東京都	兵庫県	愛媛県	岡山県	愛知県	宮崎県	秋田県	島根県	長崎県	福岡県	京都府	大阪府	滋賀県	岩手県	山口県	三重県	徳島県
37	25	16	14	12	11	8	6	6	5	4	4	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1

計 26県 170戸

(3) 地区別入植戸数

オーストラリア	オーストラリア	シリカエロ	ゼロエラ	マフシ	カピバル	カピケンバード	エストレーリヤ	P. J. C 市	P. Porān 市	計
33戸	6戸	32戸	7戸	7戸	7戸	5戸	12戸	45戸	16戸	170戸

4. 入植者の経済状況

1968年度当地区農業者41家族の年間農業所得の平均は、僅か10万カラニー（約800US\$）であった。この中、雑作主体農家の農業所得は5万カラニー（約400US\$）にも達していない。

しかし一方に於て、当地区が伯国との往来自由な国境地帯という特殊な社会的経済的環境であること、しかもP.J.C. P.P両府が現在発展への盛んな胎動期であるが為に、この環境とチャンスと上手に利用して飛躍的に伸びた入植者もある。後者の例は主として商業者に多く、年間純益20万～100万カラニー（1600～4000US\$）平均40万カラニー（3200US\$）と農業者の水準を遙かに凌駕している。又、農業者でもこの地の利とチャンスを利用して年間200万カラニー（約16,000US\$）以上の所得を揚がっている養鶏農家も在って、パラグアイ移住の成功と不成功の事例をこゝに集めた感がある。

5. 営農概況

当地区の営農は基幹作物たるカフェーを抜きにして論ずることは出来ない。それほど入植地全体としてカフェー収入の占めるウエイトは大であると同時に、地域社会に対する経済的寄与も亦無類である。このカフェーが当地区では採算性抜群、一見生育頗る良好と申し分のない作物であるが、唯一つ（これが決定的要因であるが）冬期には常に霜害に脅されるという宿命を負っているが為に、安定した基幹作物たり得ない。現に今年（1969年）7月10日の豪霜により100%の被害を受け、1970年度は殆んど収穫皆無と目されている。

その他の永年作物としては、柑橘、主としてホンカンが2年前より一部生産期に入り、年次別生産量の増大とほぼ平行して消費人口も増加している。この供給と需要の均衡は、生産量急増の傾向に鑑みこの2～3年間に破れるであろう事は明白であるが、第二次の市場としてアスンシオン、コンセプシオンを目標としている。

雑作については、大豆、マイス、小麦、ヒマ等が主な作物である。雑作は短期換金作物として、当地区では経営上欠くべからざる作物であり、市場性についても問題はない。しかし採算性が低い上に1戸当たりの耕作面積が狭小であるから、現状では雑作だけで経営の安定を図る事は困難である。

一方 P.J.C.、P.P 両市の近郊に入植した農家は養鶏、蔬菜でコーヒーに次ぐ収入を揚げる。この部門では将に日本人の独壇場である。しかし如何せん、限られた当地区消費市場のみでは大規模な経営は不可能と云える。

以上、採算性の高い作物は栽培上もしくは市場性に向題があり、栽培上もしくは市場性にさして向題がない作物は採算性が低いというパラグアイの他の入植地と共通の悩みを持っている。

しかしこの様に農業事情としてはネガティブな面が多いにも拘らず、全パラグアイ入植者中農業所得では按さん出た農家も輩出している事は、この地区の経済的環境の特殊性を示すものと云えよう。

又、新規導入作物として、最近伯國の日本人ハツカ栽培者が、カピタンバードに 2,100ha の土地を購入、今年からハツカの大規模栽培を開始したこと、当地区全域に華農國が台湾桐の種根を配布、増植を開始したことが、当地区に新しい営農の道を開くものとして期待されている。

アマンバイ移住地邦人入植者主要作物総生産量 (1969年度)

作物名	植付面積(本数頭羽数)	生産量	生産額
コーヒー	600,000本	120 ton	10,000,000Gs
柑 橘	6,000 "	4,000 箱	700,000 "
小 麦	250 ha	120 ton (予想)	1,100,000 "
大 豆	170 "	200 "	1,700,000 "
マ イ ス	300 "	500 "	1,800,000 "
鶏 卵	20,000羽	200,000 打	8,000,000 "
豚	700頭	(飼養頭数)	
牛	160 "	(")	

5. アマンバイ地区の日本人組織

(1) アマンバイ農協 Soc. Coop. Amambay. Agric. Ltda.

アマンバイ農協は1961年に結成後1964年迄は~~概~~^{一見} 順風満帆な運営と見えたが、1965年以降組合員の受けた致命的な霜害はその依組合に跳返り、経済各事業収入は激減し、信用事業として組合員に貸付けた資金は殆んど回収不能となったので、事業団及び現地勸銀等の外部負債とその伴固定化した。そして1967年には勸銀への金利支払いの為の資金繰りに高利の借入金をして益々資金繰りに追いつめられたが、事業団の援助と一部カフェー生産者の其の後の立直りにより漸く急場を切抜けることができた。それと同時に、当農協の機構の合理化を図るべく1968年を最後に専従役員を廃止して参事制の設定、職員削減を行い、組合員の生産意欲、出荷意欲を向上させる為、従来の総合農協的システムを改革して、各部門別独立採算制を施す等漸く再建の見通しがついたと思われた。しかし今年7月10日の霜害によって又も振出しに戻り再建への目標から一歩後退する事となったので、アマンバイ農協の前途はまだまだ多難が予想される。

現在組合員総数は115名である。

アマンバイ農協 貸借対照表

(1969.1.31現在) 単位 ㄔs

資産の部		負債及び資本の部	
内訳	金額	内訳	金額
信用事業資産	7,947,957	信用事業負債	13,343,538
全済事業資産	2,173,647	全済事業負債	148,671
固定資産	4,615,687	自己資本	2,636,322
当期欠損金	391,240		
合計	16,128,531	合計	16,128,531

アマンバイ農協 組合員 生産物取扱量及び金額

(1969.1.31現在)

生産物	数量	金額	備考
輸出用カフェー	2,800俵	15,205,806 ^{ㄔs}	精選カフェー (1俵60kg)
国内販売用カフェー	285 "	1,008,794 "	(")
大豆	46,232kg	309,856 "	
小麦	79,371 "	849,816 "	
mais	14,173 "	44,032 "	
ヒマ	1,497 "	17,074 "	
その他		4,004 "	
合計		17,499,382 "	

(2) エストリエーリヤ農産協同組合 Soc. Coop. Agro. Industrial. Estrella

前記したアマンバイ農協とは別戸に組合員12名からなる組合が、1969年2月 日付で正式に政府の認可を受けて誕生した。本農協の組合員は全てコーヒー生産者であって、コーヒーの共同加工、共同販売を主目的としている。本組合も今回の霜害により組合員のコーヒー樹が大きな被害を受け、現在閉店休業の状態にある。

図に、エストリエーリヤ農協組合員の1968年度に於ける精選済コーヒー総生産量は600袋でアマンバイ農協と共に北米へ輸出した。

(3) 日本人会 及び 部落会

当地区全体を統一する自治組織はまだなく、ベ、ポ両市を包含した親睦団体としての日本人会、そして各地区小集団入植地には隣保組織としての部落会が存して、教育、治安、地区行事等それぞれ身近な問題の解決に当たっている。○最近に至り当地区の統合自治組織の必要性から、統合日本人会結成の気運が高まってきている。

現存地区別 隣保組織

名 称	地 域	会 員	会費月額
アマンバイ中央日本人会	ベ、ポ両市在留邦人	61名	45 ¢s
シリグエロ 部 落 会	シリグエロ地区入植者	31 "	45 "
サンハフィタン部落会	サンハフィタン地区入植者	30 "	45 "

(4) 日語教育

当地区でも前記した各地域の自治組織が中心となり、日本人子弟に対する日語教育が行はれている。この日本語教育に対しては、大使館、事業団の援助があり、父兄の負担を少なからず軽減している。

アマンバイ入植地 日語学校現況

1969年7月現在

学校名	運営主体	地帯戸数	生徒数	内訳							教師数	教科	父兄負担額(月額)	授業時間
				小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学生				
中央 日語学校	中央 日本人会	82	63								1	国算 語会教	子弟1人当 3.50 ^円	月曜～金曜 前 8.00～10.00 後 1.30～4.30
シラゴロ 日語学校	地区 教育委員会	32	27	23	11	12	7	6	3	1	2	国算 語数算	子弟1人の場合 70 ^円 " 2人 " 130 " " 3人 " 170 " " 4人以上 190 "	土曜・日曜 週 8 時間
サンパイクン 日語学校	地区 教育委員会	31	35	5	5	2	4	2	4	13	3	国算 語会教 理科	子弟1人の場合 4 ^円 " 2人 " 7 " " 3人 " 8.50 "	金曜・土曜 週 2日 中学生 12 時間 小学生 14 "

(5) 海外移住事業団 アマンバイ出張所

海外移住事業団アマンバイ出張所は、1968年2月19日に開設された。職員は現在駐在員1名、補助員1名計2名で、融資、営農、援護業務に携っている。

別表(1)

ペドロファンサバリエーロ 年度別 気温表

観測地点 ペドロファンサバリエーロ 稲行場

年次 月別	1959年		1960年		1961年		1962年		1963年		1964年		1965年		1966年		1967年		1968年		1968年 度の平均 気温
	絶対 最高	絶対 最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	
1月	-	-	30.8	17.0	31.5	16.0	31.0	13.0	31.0	19.0	33.3	18.0	30.6	13.4	32.0	14.8	32.4	16.4	32.0	13.0	23.44
2月	-	-	31.0	16.5	31.7	18.0	34.0	14.3	30.0	17.0	32.4	16.0	31.3	17.0	32.4	17.0	30.0	17.3	31.4	17.0	23.74
3月	-	-	32.0	13.4	32.0	11.8	33.0	15.0	32.0	14.3	31.0	12.0	29.0	10.0	32.0	13.2	31.2	15.0	31.6	13.8	23.41
4月	-	-	31.0	11.0	31.5	10.2	31.0	8.8	30.6	12.5	31.0	13.0	29.2	9.0	30.7	12.2	31.2	7.8	29.1	7.0	18.63
5月	29.8	5.3	-	-	27.4	8.5	27.0	1.2	28.0	7.2	27.4	10.0	28.2	9.8	31.4	7.0	28.8	13.2	26.4	2.6	16.32
6月	27.2	5.7	27.0	4.0	27.2	2.3	28.0	5.4	27.0	4.6	26.0	5.0	27.0	9.0	29.0	0.2	27.5	3.0	26.0	7.8	17.96
7月	28.0	7.2	27.0	3.4	28.0	7.0	26.0	3.8	28.2	4.4	28.0	5.0	27.0	1.0	28.7	5.5	30.0	6.0	27.4	5.5	17.59
8月	30.5	4.5	29.5	4.5	32.0	12.6	31.0	4.4	32.2	1.0	31.4	7.0	30.4	1.0	32.2	1.0	31.9	10.2	28.4	8.0	18.31
9月	33.4	8.0	33.0	3.1	33.5	6.8	31.4	11.1	32.6	10.0	32.8	3.0	33.6	8.2	33.0	6.8	33.0	8.2	32.0	7.8	18.44
10月	35.8	7.0	32.0	13.0	33.5	12.5	29.0	9.0	34.8	11.0	31.8	9.0	32.0	10.8	33.2	12.2	34.1	15.2	32.6	8.0	23.45
11月	32.0	13.0	29.4	8.8	30.8	14.4	32.8	14.0	34.0	12.3	31.0	11.8	32.5	12.6	31.8	12.2	-	-	35.4	17.0	25.46
12月	31.8	11.9	23.5	11.8	31.8	16.5	34.2	17.0	32.0	15.0	30.0	12.7	31.0	16.0	33.4	14.9	-	-	31.4	17.2	24.00

別表(2)

年度別雨量表 ペドロファンカバリエロ

(資料) *Café Cordillera de Paraguay* ent. J. Caballero

年次 月別	1945	46	47	48	49	1950	51	52	53	54	55	56	57	58	59	1960	61	62	63	64	65	66	67	68	年平均
1月	140	298	343	138	285	114	266	249	101	280	240	174	194	152	137	247	150	121	210	110	220	164	339	227	198
2月	102	199	278	129	82	106	316	141	76	148	172	91	140	153	156	156	140	92	114	314	223	117	244	75	153
3月	215	385	103	65	241	97	329	137	65	168	227	110	96	187	181	32	202	97	339	197	135	267	123	111	169
4月	139	131	190	102	93	57	68	165	235	49	94	178	182	96	89	112	168	132	87	139	140	82	38	113	126
5月	91	339	221	20	138	45	100	49	192	156	102	244	43	38	73	144	88	123	117	89	232	124	22	169	125
6月	150	92	141	17	77	76	83	85	116	144	66	117	134	75	72	79	121	120	127	79	163	122	161	10	100
7月	73	262	96	26	8	5	7	16	1	19	92	151	132	87	188	25	7	15	18	52	132	59	39	66	66
8月	50	16	86	8	18	2	56	6	0	0	104	27	203	11	28	120	45	56	66	100	28	9	110	47	47
9月	95	189	192	68	11	48	57	77	229	139	4	215	244	328	22	13	79	288	33	45	57	63	83	112	112
10月	141	255	339	180	373	143	231	312	196	118	277	263	44	237	183	282	138	202	60	94	315	212	147	202	202
11月	187	64	79	226	114	126	135	274	220	23	140	68	134	138	88	318	232	152	292	199	136	90	57	153	153
12月	145	210	285	56	167	56	165	70	123	209	272	143	220	266	304	201	152	158	152	251	362	165	177	188	188
合計	1532	2442	2353	1047	1611	882	1819	1587	1608	1477	1726	1685	1771	1773	1524	1725	1528	1561	1439	1671	3146	1483	1516	1643	1643
平均	127	203	196	87	124	73	151	132	134	123	149	140	147	147	127	143	127	130	119	139	179	123	129	136	136

別表(3)

ペドロファンカバリエーロ 気象表 (1968年度)

観測地点 ペドロファンカバリエーロ飛行場

項目	1 月				2 月				3 月				4 月				5 月				6 月				
	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	
気	絶対最高	1	2	0	3	4	2	3	4	5	8	1	8	1	1	2	8	4	0	4	2	5	0	5	2
	最高平均	29	26	28	28	28	27	28	28	30	26	27	28	23	26	22	24	22	18	13	17	23	23	21	22
温	絶対最低	0	1	0	3	0	2	4	2	0	0	8	2	0	0	8	6	0	6	4	0	0	0	8	2
	最低平均	16	17	13	15	17	17	18	17	18	14	15	15	7	11	7	8	5	7	10	6	10	9	7	9
温	最低平均	42	33	42	49	27	42	12	33	92	44	69	70	66	21	75	21	57	87	00	44	1	36	56	18
	平均	18	18	12	18	19	19	19	19	19	18	17	18	12	15	11	13	11	8	13	11	13	13	12	13
雨 量	平均	25	21	26	45	46	60	56	71	41	59	52	41	95	72	15	63	07	91	20	32	30	35	15	76
	雨 量	23	22	23	23	24	23	23	23	25	22	22	23	17	20	17	18	17	13	18	16	18	18	17	17

項目	7 月				8 月				9 月				10 月				11 月				12 月				一年平均 (合計)	
	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)	上旬	中旬	下旬	平均 (合計)		
気	絶対最高	4	0	0	4	0	0	0	0	8	0	0	0	4	0	6	6	4	4	5	1	0	4	4	2	69
	最高平均	27	26	27	27	27	28	27	28	30	32	32	32	32	30	32	31	35	29	34	33	31	31	30	30	29
温	絶対最低	0	5	0	5	0	0	2	4	0	8	4	8	0	0	3	1	0	0	8	26	8	0	2	6	97
	最低平均	8	5	8	5	10	8	12	10	8	7	8	7	14	8	14	12	20	17	17	18	17	18	17	17	11
温	最低平均	60	08	41	03	38	38	07	28	00	86	66	84	28	22	90	50	22	07	58	51	20	29	42	72	04
	平均	11	12	12	12	13	12	14	13	13	11	13	12	12	14	25	19	22	19	19	20	19	20	19	19	16
雨 量	平均	40	27	42	59	07	42	45	31	74	33	26	44	03	79	55	45	35	55	50	46	6	26	39	00	89
	雨 量	16	17	18	17	18	18	19	18	18	16	20	18	24	18	27	23	28	23	24	25	23	24	23	24	20